

令和5年度秋田県放課後児童支援員認定資格研修 研修レポート抜粋

(誤字脱字等については校正しているため、原文と異なる場合があります)

県北会場

科目 ⑮放課後児童支援員の仕事内容

- ◆ 放課後児童支援員に求められる資質及び性能、放課後児童クラブにおける職員集団のあり方、放課後児童支援員の社会的責任と職場倫理については、仕事をする上でしっかりと自覚をもって児童の育成に努めなければいけない責任があると感じました。遊びの場面での関わり方の工夫(コラム)やワークを実際にやってみて、参考になりました。「支援員の心得」を忘れずに肩の力を抜いて子どもたちの傍にいることも必要と考え、笑顔で関わりたいと思いました。
- ◆ 年齢の違う子どもたちが一緒に過ごす集団の中で、一つ一つのことに丁寧に対応し、安全を守りながら、子どもたちが連続性を意識した遊びや生活ができることが保護者にとっての安心に繋がると改めて思いました。発達段階や一人一人のことをよく知るといふことを大事にしていきたいと思えます。自分自身を大事にすることは時に勇気がいることですが、講師の最後の言葉のように子どもの力を信じ、肩の力を抜いて、楽しいと感じる自分で子どもの隣に座っていただける大人でありたいと思えました。
- ◆ 私は子どもたちが安心して過ごせるように、学校とも連携して情報交換し、保護者にも安心して預けてもらえるように子どもたちの学童での過ごし方を伝える工夫をしたり、出欠席を的確・適切にこなして速やかに状況を把握しつつ、子どもたちの心身の状態をこれまで以上に把握できるようになりたいと思えました。なによりも子どもたちに「学童に行くのがとても楽しい！」と思ってもらえるような場所を提供したいです。
- ◆ 仕事内容の中で、職業倫理について触れる部分がありました。良識性、誠実性、公正性、主体性、遵法性の5つの視点から見ることはできるとありましたが、理解しきれていないところがあると思えました。人権の尊重など、できることには気を付けて、理解できていない部分は主体的に学び、日々の業務や支援に活かしていきたいです。
- ◆ 放課後児童支援員の仕事は、子どもが放課後児童クラブで安全に安心して過ごすことができるように環境を整備し、子どもの様子を日常的に保護者へ伝え、家庭と連携して育成支援をすることです。また、その中で遊び相手になったり、子どもの知らない遊びを紹介したり、できるだけ多様な関わり方でそばにいて、楽しく安全に遊べるように配慮も大切であることから、自分自身色々な遊びに関する知識も必要だと思えました。